

# 浮世絵のヒロインたち

組物・続き絵から生まれるストーリー

Ukiyo-e Heroines: Stories Told in Sets of Ukiyo-e Prints



2024年7月9日[火]～9月26日[木]  
北海道立近代美術館 展示室A 1階

「浮世絵のヒロインたち」展は、第Ⅰ期～第Ⅲ期に分けて開催します(作品は総入れ替えとなります)。  
\*第Ⅰ期 7/9(火)～8/4(日) \*第Ⅱ期 8/8(木)～8/25(日) \*第Ⅲ期 8/29(木)～9/26(木)

◎第Ⅲ期展示作品のみ掲載しています。

当館が所蔵する高橋博信氏旧蔵の歌川国貞、歌川国芳、溪斎英泉を中心とした3人の浮世絵師の作品の中から、女性を主役(ヒロイン)としながら、場面設定や文化的・社会的背景との関連の中で、さまざまなストーリーを想起させる作品を、「組物」や「続き絵」を通してご紹介します。

No.	作家名	作品名	制作時期、年代	技法・材質	判型
1	歌川国芳	警諭草をしへ早引 わ 輪 (糸車)	文化12(1815)頃	木版・紙	大判錦絵
2	歌川国芳	警諭草をしへ早引 へ 辺 土佐の海	文化12(1815)頃	木版・紙	大判錦絵
3	歌川国芳	賢女烈婦伝 松浦佐用姫		木版・紙	大判錦絵
4	歌川国芳	賢女烈婦伝 大井兎		木版・紙	大判錦絵
5	歌川国芳	(雪と娘)		木版・紙	大判錦絵 縦2枚続
6	歌川国芳	(船橋屋菓子司前)	天保10-12(1839-41)頃	木版・紙	大判錦絵 3枚続
7	歌川国芳	当盛江戸鹿子 両国の景	天保(1830-44)前期	木版・紙	大判錦絵
8	歌川国芳	当盛江戸鹿子 三めぐり	天保(1830-44)前期	木版・紙	大判錦絵
9	歌川国芳	当盛江戸鹿子 茅場町薬師	天保(1830-44)前期	木版・紙	大判錦絵
10	歌川国芳	大願成就有ヶ滝縞 (玉簾の滝)	弘化2(1845)頃	木版・紙	大判錦絵
11	歌川国芳	大願成就有ヶ滝縞 (布引の滝)	弘化2(1845)頃	木版・紙	大判錦絵
12	歌川国芳	季寄時計年中行事 申刻 霜月 酉ノまちの にきわひ	弘化4-嘉永5(1847-52)頃	木版・紙	大判錦絵 3枚続
13	歌川国芳	季寄時計年中行事 戌刻 浅草市の賑ひ	弘化4-嘉永5(1847-52)頃	木版・紙	大判錦絵 3枚続
14	歌川国芳	当盛 今戸の夜ざしき	弘化4-嘉永5(1847-52)頃	木版・紙	大判錦絵 3枚続
15	歌川国芳	納涼蛸		木版・紙	大判錦絵 3枚続
16	歌川国芳	(諸国六玉川) 武蔵国調布の玉川		木版・紙	大判錦絵 3枚続
17	歌川国芳	(山海)目出鯛図会 あたまかいたい	嘉永5(1852)	木版・紙	大判錦絵
18	歌川国芳	山海愛度図会 えりをぬきたい	嘉永5(1852)	木版・紙	大判錦絵
19	歌川国芳	さんかい愛度図会 これが着たい	嘉永5(1852)	木版・紙	大判錦絵
20	歌川国芳	山海愛度図会 トットやくたい	嘉永5(1852)	木版・紙	大判錦絵
21	歌川国芳	山海愛度図会 一寸見てもらいたい	嘉永5(1852)	木版・紙	大判錦絵
22	歌川国芳	山海愛度図会 人形になりたい	嘉永5(1852)	木版・紙	大判錦絵
23	歌川国芳	山海愛度図会 ねむつたい	嘉永5(1852)	木版・紙	大判錦絵
24	歌川国芳	山海愛度図会 はやくねかしたい	嘉永5(1852)	木版・紙	大判錦絵
25	歌川国芳	山海愛度図会 早く見たい	嘉永5(1852)	木版・紙	大判錦絵
26	歌川国芳	山海愛度図会 よい日をおかミたい	嘉永5(1852)	木版・紙	大判錦絵
27	溪斎英泉	新吉原八景 狎客の夜の雨 尾張屋内 糸にし	文政4-5(1821-22)頃	木版・紙	大判錦絵
28	溪斎英泉	新吉原八景 日本堤の落雁 玉屋内玉櫛	文政4-5(1821-22)頃	木版・紙	大判錦絵
29	溪斎英泉	新吉原八景 楼上の秋の月 丸海老屋内江川	文政5-6(1822-23)頃	木版・紙	大判錦絵
30	溪斎英泉	今様美女競 辰巳	文政8(1825)頃	木版・紙	大判錦絵

31	溪斎英泉	今世美女競 深窓娘	文政8(1825)頃	木版・紙	大判錦絵
32	溪斎英泉	時世美女競 抱けいしや	文政8(1825)頃	木版・紙	大判錦絵
33	溪斎英泉	時世美女競 女房	文政8(1825)頃	木版・紙	大判錦絵
34	溪斎英泉	時世美女競 辻君	文政8(1825)頃	木版・紙	大判錦絵
35	溪斎英泉	当世好物八契 (かるた)	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
36	溪斎英泉	当世好物八契 けん酒	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
37	溪斎英泉	当世好物八契 (ひな人形)	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
38	溪斎英泉	美人会中鏡 時世六佳撰 (湯上がり美人)	文政9-10(1826-27)頃	木版・紙	大判錦絵
39	溪斎英泉	美人会中鏡 時世六佳撰 (盃を持つ芸妓)	文政9-10(1826-27)頃	木版・紙	大判錦絵
40	溪斎英泉	今様美人拾二景 高名輪 うわきそう	文政5-6(1822-23)頃	木版・紙	大判錦絵
41	溪斎英泉	今様美人拾二景 隅田川 おもしろそう	文政4-5(1821-22)頃	木版・紙	大判錦絵
42	溪斎英泉	今様美人拾二景 深川すさき弁才天 おてんばそう	文政5-6(1822-23)頃	木版・紙	大判錦絵
43	溪斎英泉	今様美人拾二景 よし原 手がありそう	文政5-6(1822-23)頃	木版・紙	大判錦絵
44	溪斎英泉	今様美人拾二景 不忍弁天 しづかそう	文政5-6(1822-23)頃	木版・紙	大判錦絵
45	溪斎英泉	当世廓風俗 海老屋内大井	文政10(1827)頃	木版・紙	大判錦絵
46	溪斎英泉	当世廓風俗 岡本屋内豊岡	文政10(1827)頃	木版・紙	大判錦絵
47	溪斎英泉	吉原要事廓の四季志 正月 大こくまい 玉屋内濃紫	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
48	溪斎英泉	よしはらやうじ廓の四季志 二月 大神楽 尾張屋内長尾	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
49	溪斎英泉	よしはらやうじ廓の四季志 三月 中の町桜 玉屋内薄雲	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
50	溪斎英泉	吉原要事廓四季志 四月 客の行かい 岡本屋内菅之助	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
51	溪斎英泉	吉原要事廓の四季志 五月 端午初のあやめ 松葉屋内増山	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
52	溪斎英泉	吉原要事廓の四季志 六月 髪あらい日 三浦屋内三千歳	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
53	溪斎英泉	よしはらやうじ廓四季志 七月 とうろうほし祭 尾張屋内嘉保留	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
54	溪斎英泉	吉原要事廓の四季志 八月 八さくに八か 大文字屋内誰袖	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
55	溪斎英泉	吉原要事廓の四季誌 九月 俄ねり者 鶴屋内大淀	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
56	溪斎英泉	吉原要事廓四季志 十月 内証ゑひす講 姿海老屋内七里	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
57	溪斎英泉	吉原要事廓の四季志 十一月 仲の町雪見 玉屋内白玉	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
58	溪斎英泉	吉原要事廓の四季志 十二月 節分 海老屋内鴨緑	文政6(1823)頃	木版・紙	大判錦絵
59	溪斎英泉	契情道中双媒 見立よしはら五十三つみ かめ山 若松屋内花川	文政8(1825)頃	木版・紙	大判錦絵
60	溪斎英泉	契情道中双媒 見立よしはら五十三つみ 奥津 尾張屋内嘉保留	文政8(1825)頃	木版・紙	大判錦絵
61	溪斎英泉	傾城道中双媒 見立よしはら五十三対 戸塚 まつはや増山	文政8(1825)頃	木版・紙	大判錦絵
62	溪斎英泉	(花魁道中 花鳥図)		木版・紙	大判錦絵 縦2枚続
63	溪斎英泉	(花魁道中 鯉の滝のぼり)	天保期(1830-44)	木版・紙	大判錦絵 縦2枚続
64	溪斎英泉	吉原美人 いてのやまぶき 扇屋内鳩照	天保6(1835)頃	木版・紙	大判錦絵
65	溪斎英泉	吉原美人 八瀬のしのぶ 扇屋内朝妻	天保6(1835)頃	木版・紙	大判錦絵
66	溪斎英泉	(客を送る花魁)	天保6(1835)頃	木版・紙	大判錦絵 縦2枚続
67	溪斎英泉	(月を眺める娘)		木版・紙	大判錦絵 縦2枚続
68	溪斎英泉	(湯がえり)	文政10(1827)頃	木版・紙	大判錦絵 縦2枚続
69	溪斎英泉	美人春の風		木版・紙	大判錦絵 3枚続

70	溪斎英泉	浮世美人十二箇月 六月 天王祭	天保6(1835)頃	木版・紙	大判錦絵
71	溪斎英泉	浮世美人十二箇月 四月 郭公 初鯉	天保6(1835)頃	木版・紙	大判錦絵

## 岩橋英遠《道産子追憶之巻》

IWAHASHI Eien, *Hokkaido Reminiscence*

展示室A 1階

冬に始まり冬に終わる北海道の四季の移ろいを、夜明けから始まり再び夜となるまでの1日の推移と重ね、静かにそして鮮やかに展開していく絵巻形式の大作。20年に及ぶ長い構想の末、完成させた岩橋英遠の代表作《道産子追憶之巻》をご紹介します。

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	岩橋 英遠	道産子追憶之巻	1978-82(昭和53-57)	紙本彩色・額	60.7×2,908.8

\*寸法は縦×横

# なぜこのかたちなの？

子どもが大人を連れて来たくするような美術館を目指して、新たな企画「ウィズ・キッズ」を始めます。テーマは「なぜこのかたちなの？」。ガラスの箱や不思議なカップをご紹介します。

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
1	アラン・ライス	宙に浮かんだ肝臓の上で対決するカップと空飛ぶ円盤	1973	ガラス	23.7×32.7×15.8
<b>はこ、蓋ものなど</b>					
2	山岡 三秋	黒釉いっちゃん箱	1954(昭和29)	陶磁	9.3×15.1×6.7
3	宮下 貞一郎	呉須絵三つ重ね	1960(昭和35)年頃	陶磁	21.5×11.0×17.5
4	宮下 貞一郎	六角香合	不詳	陶磁	6.0×6.6×4.0
5	バーナード・リーチ	蓋物	不詳	陶磁	22.2×15.8
6	小森 忍	鉄錆花文瓢注	不詳	陶磁	12.6×20.0×30.0
7	佐藤 潤四郎	三蔵法師舎利器とカバー	舎利器：1980(昭和55) カバー：1984(昭和59)	ガラス：宙吹き、カット	舎利器：8.6×7.8 カバー：14.6×21.2
8	佐藤 潤四郎	薬師寺西塔舎利器	1978(昭和53)	ガラス：型吹き、エンブレイヴィング	12.2×16.5
9	エミール・ガレ	南瓜文蓋物	1900頃	ガラス：型吹き、エッチング、エナメル彩、金彩	8.9×14.9×13.4
10	小柴 外一	踊り子文香水吹き	1940(昭和15)頃	ガラス：パート・ド・ヴェール	5.0×5.0×6.2
11	ウイスタリア・リズリー	栓付瓶	不詳	ガラス：型吹き	7.3×9.3
12	アンドレ・テュレ	香水瓶	1950-55頃	ガラス：被せガラス	10.0×16.2
13	アンドレ・テュレ	香水瓶	1950-60	ガラス：被せガラス	9.5×15.0
14	藤田 喬平	飾筥・十六夜	1982(昭和57)頃	ガラス：金属箔貼付、型吹き	30.0×14.9
15	藤田 喬平	飾筥・海の彩	1980(昭和55)	ガラス：色ガラス粒と金属箔による装飾、型吹き	20.5×24.0×18.5
16	藤田 喬平	飾筥・竹取物語	1992(平成4)	ガラス、銀：被せガラス、色ガラス粉と金箔、プラチナ箔による装飾、型吹き	26.0×29.5×17.0
17	藤田 喬平	飾筥・源氏物語	1983(昭和58)	ガラス、金属：被せガラス、色ガラス粒と金属箔による装飾、型吹き	21.5×21.0×24.5
18	不詳	蓋付碗	江戸時代末期	ガラス：型吹き、カット、金彩、着色	12.7×8.1
19	不詳	菊唐草文蓋物	江戸時代	ガラス：型吹き	12.9×9.0
20	石狩陶園	草花文蓋物	不詳	陶磁	16.6×7.8
21	小樽焼	染付蓋物	不詳	陶磁	9.3×8.2
22	大塚 哲郎	組み木	1980(昭和55)	木	153.0×135.0×145.0
<b>カップ、グラス</b>					
23	登別窯	抹茶碗	不詳	陶磁	12.5×11.8×6.1
24	登別窯	夫婦湯呑	不詳	陶磁	大：7.3×7.3 小：6.5×6.4
25	山本 正年	天目茶盃	不詳	陶磁	11.8×6.0
26	藤田 喬平	茶碗	1991(平成3)	ガラス：金箔溶着、宙吹き	14.1×7.3
27	ルートヴィヒ・モーゼル工房	ティーカップ	19世紀後半	ガラス：被せガラス、型吹き、エナメル彩、金彩	カップ：9.0×11.0×7.0/皿：14.5×2.5
28	イタリアの工房	ティーカップ	19世紀末	ガラス：金彩	カップ：10.3×7.5×12.5/皿：12.9×2.1
29	ルートヴィヒ・モーゼル工房	ワイングラス	19世紀末	ガラス：型吹き、エンブレイヴィング、エナメル彩、金彩	7.9×17.1

30	イタリアの工房	ワイングラス	19世紀末	ガラス：色ガラス粉と金箔、 金粉による装飾、ホットワー クによる装飾	9.4×21.6
31	クリス・テデスコ	無題	1973	ガラス	7.5×11.2×25.3
32	赤地 健	波にプカプカ	1973(昭和48)	陶磁	23.0×35.5×1.9
33	森 正洋	六つのカップ	1973(昭和48)	陶磁	12.8×8.3×15.6他
34	ミネオ・ミズノ	無題	1973	陶磁	8.0×17.5×12.0他
35	リサ・ラーソン	無題	1973	陶磁	13.7×13.0×7.7
36	マーガレタ・ローヘルム	家族の肖像	1973	陶磁	15.8×22.1×11.9
37	ジョニー・ロルフ	花縁カップ	1973	陶磁	19.4×11.5
38	マイケル・エドワード・コーン	スペース・カップI	1973	ガラス：被せガラス、カット	11.2×24.0×9.5
39	マイケル・エドワード・コーン	スペース・カップ64番	1981	ガラス：宙吹き、スランピン グ、カット	27.5×51.0×17.5
40	マーヴィン・リポフスキー	パワー・カップ	1973	ガラス：鑄造	14.8×10.0×34.8
41	リチャード・ノットキン	窮地におしこめられたカップ	1973	陶磁、ガラス	20.0×28.0
42	ジェイ・マスラー	街景	1982	ガラス：カット、サンドブラ スト、着色	45.0×20.0
<b>皿</b>					
43	小樽焼	染付皿	不詳	陶磁	11.7×3.0他
44	小樽焼	染付山水文皿	不詳	陶磁	10.2×18.7×2.9
45	蝦夷窯（江戸武焼）	魚形北海道地図深皿	不詳	陶磁	12.3×17.8×4.0
46	柴山 勝	鮑形蟹文器	不詳	陶磁	18.3×27.9×7.0
47	小柴 外一／岩城硝子株式会社	ばら 皿セット	不詳	ガラス：型押し、研磨	大皿1点：30.3×6.0 小 皿6点：(各)14.0×3.0
48	小柴 外一／岩城硝子株式会社	かごめ 皿	不詳	ガラス：型押し	14.8×3.8
49	小柴 外一／岩城硝子株式会社	皿	不詳	ガラス：被せガラス、カット	14.3×14.3×2.3
50	ガレ工房	ラズベリー文皿	1904-14頃	ガラス：被せガラス、エッチ ング	25.0×22.0×5.3
51	マリウス＝エルネスト・サビノ	うにに昆布文皿	1920代	ガラス：彩色、型押し	30.0×7.2
52	山岡 三秋	辛夷文角飾皿	不詳	陶磁	39.6×39.9×7.5
53	宮下 貞一郎	白釉縞鉄絵角皿	不詳	陶磁	42.0×26.4×6.0
54	ベンジャミン・ムーア	パツラ・ボウル	1990	ガラス：宙吹き、被せガラス	51.5×11.5
55	ジョーイ・カークパトリック フローラC.・メイス	フルーツの静物	1994	ガラス：宙吹き、ガラス粉溶 着による着色	49.8×25.1
56	藤田 喬平	大皿・宇宙	1988(昭和63)	ガラス：宙吹き、インカル モ、モザイク・ガラス	66.0×4.0
57	ハーヴィーK.・リトルトン	切断された青い円盤	1981	ガラス：被せガラス、カット	23.0×11.0×10.0他

\*寸法は直径×高さ、あるいは奥行×幅×高さ



道内各地の特色ある美術館を紹介する「アートギャラリー北海道」事業として開催する本展では、街の発展とともに姿を変えてきた港のすがたをテーマに、苫小牧市美術博物館等のコレクションをご紹介します。

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
1	坂東 史樹	小さくて深い空	2019(令和元)	ミクストメディア	10.0×500.0×200.0
2	坂東 史樹	苫小牧埠頭西No. 1倉庫 (インスタレーション「その仔犬をポケットに入れよ、旅を続けよう。」より)	2015(平成27)	ミクストメディア	220.0×26.2×26.0
3	坂東 史樹	苫小牧西港 (インスタレーション「その仔犬をポケットに入れよ、旅を続けよう。」より)	2015(平成27)	ミクストメディア	220.0×26.0×26.2
4	坂東 史樹	苫小牧遠景 (インスタレーション「その仔犬をポケットに入れよ、旅を続けよう。」より)	2015(平成27)	ミクストメディア	220.0×31.1×26.2
5	新井 康須雄	樽前山展望	不詳	油彩・キャンバス	53.0×65.2
6	大平 喜彦	フェリーターミナルを望んで	1988(昭和63)	油彩・キャンバス	45.5×55.0
7	大平 喜彦	港遠望	1988(昭和63)	油彩・キャンバス	45.5×55.0
8	大平 喜彦	漁港好日	1988(昭和63)	油彩・キャンバス	45.5×55.0
9	大平 喜彦	漁港夏の日に	1988(昭和63)	油彩・キャンバス	45.5×55.0
10	大平 喜彦	商港の午後	1988(昭和63)	油彩・キャンバス	45.5×55.0
11	横山 順一郎	苫小牧港	1997(平成9)	油彩・キャンバス	91.0×116.7
12	鹿毛 正三	漁港	1950(昭和25)	油彩・キャンバス	73.0×91.0
13	村上 弥太郎	船のある風景	1954(昭和29)	油彩・キャンバス	52.7×65.0
14	福井 正治	滞船	不詳	油彩・キャンバス	33.3×53.0
15	本間 武男	夏の日	不詳	油彩・キャンバス	50.0×60.6
16	砂田 友治	勇払原野	不詳	油彩・キャンバス	31.8×41.0
17	菅原 勇	工場地帯への道	1993(平成5)	油彩・キャンバス	162.0×194.0
<b>博物資料</b>					
18	—	潜水用ヘルメット	昭和30-40代		39.0×35.5×42.0
19	—	自記流向流速計	昭和30代		87.0×32.5×55.0
20	—	空撮用カメラ	昭和時代		30.0×30.5×26.8
21	志方 孝之	築港写真	撮影:1953-68(昭和28-43)		60.0×84.7
22	—	絵葉書 ふるさとのみなと 苫小牧港	1988(昭和63)		10.4×26.8
23	吉田 初三郎	苫小牧市鳥瞰図	1953(昭和28)		17.7×49.0
24	吉田 初三郎	苫小牧市鳥瞰図	1950(昭和25)		17.4×49.0
参考	志方 孝之	『砂浜と原野にいでん』	発行:1977(昭和52)		28.3×27.5×2.9

\*寸法は縦×横、または高さ×幅×奥行

no. 1は苫小牧市蔵、参考資料は当館蔵、それ以外は全て苫小牧市美術博物館蔵。